

揖斐高等学校新聞

第179号
H22. 7. 23

発行所
岐阜県揖斐川町三輪
岐阜県立揖斐高等学校
ホームページ
<http://school.gifu-net.ed.jp/ibi-hs/>
発行責任者
高賀敦子
編集委員
揖斐高報道委員会
印刷
株式会社西清プリント

充実した夏休みにするために

校長 高賀敦子



百六十名の新入生が本校に入学して早三ヶ月余りが過ぎました。当初緊張していた一年生も少しずつ高校生活になじみ、揖斐高生らしくなってきたと思います。先日南アフリカで行われたサッカーW杯では、開催前は劣勢と見られていた日本チームが世界の強豪を相手に予想以上の戦いぶりを見せ、私達も大いに勇気づけられました。日本の選手達からは、常に勇気と強い意思をもち、自分自身の夢や目標に果敢に立ち向かうことの大切さを教えられたような気がします。

さて、今年も夏休み目前となりました。誰もが充実した夏休みをしたいと考えていると思います。そのためには自分で目標を立て、計画を立てて毎日着実に実行していくことが大切です。これは、社会では当然必要とされる「自己管理能力」(誰かに言われたからやるのではなく、自分で決めた計

画に沿ってやり遂げることであり、たとえ夏休み明けにすぐに結果が出なくても、努力を続けることは大変意味があります。目標に向かって戦い続けるサッカー日本代表選手のような強い意志をもつことが、将来のみなさんを支えてくれる大きな力となります。まずは、自分の目標を掲げ、できることから始めましょう。「千里の道も一歩から」です。話は変わりますが、この四月に大垣市内の中学校の校長先生より電話をもらいました。電話の内容は次のようなものでした。「昨日前任校の軟送迎会があり、終わった後近鉄揖斐駅の待合室に一人でいた時、自転車の高校生が「こんばんは」ととてもさわやかに挨拶をしてくれた。聞くと揖斐高校の生徒であるという。あまりにもさわやかであったので、さすが揖斐高校だと思います。うれしさを伝えたくて電話をさせていただきました」とのことでした。

また、六月に入ってから三年生の女子生徒二名と二年生男子生徒二名が、学校帰りに揖斐厚生病院の近く

で、散歩途中の老人が倒れて怪我をされているのを発見し、連携して揖斐総合病院へ連絡し救助したということで、揖斐警察署から感謝の電話をもらいました。そして六月中旬にも、砂利にタイヤをとられて動けなくなった車を、帰宅途中の二年生男子二名が押しつけて、本当に助かったという電話がありました。

本校は昨年九十周年を迎えた伝統校で、揖斐高生はいつも地域から注目されています。常に一人一人が揖斐高生としての自覚と誇りをもち、毎日の高校生活を送ってほしいと思います。そして時間的に余裕のある夏休みに、ぜひ機会を見つけて家庭の手伝いや地域のボランティアに参加してほしいと思います。手伝いを通して家族の一員である自分を見つめ直すと同時に、ボランティアに参加し、社会生活に必要な「共生」「共存」の意識や態度を身につけて下さい。前述した生徒に続く心温まる話が聞けることを願っています。自分の力で心身共に充実した夏休みにして下さい。

生徒会活動 挑戦＝自分づくり

生徒会長 安江野乃花



今年の生徒会は、前期スローガン「挑戦＝自分づくり」をもとにスタートしました。自分から積極的に挑戦し、自信を持って「できた」というものをたくさん作ってほしい、全校生徒の二本となる人になってほしいという願いからスローガンを決めました。

揖斐高校は体育祭・文化祭に向けて動き出しました。生徒全員でつくりあげる体育祭・文化祭にしたいと考えています。そこで、実行委員会をたちあげ、クラス全員で取り組めるよう努力を呼びかけています。生徒一人一人がクラス・揖斐高の一員だという自覚を持ち、考え行動することがとても大切だと思います。

揖斐高校は昨年度九十周年を迎えました。先輩方が築いてこられた伝統を私たちは受け継いでいかなければなりません。特にあいさつや地域交流は大切だと思います。普段の生活の中で、生徒一人一人が意識し、揖斐高校の新たな伝統を築いていきたいと思います。

生徒会役員紹介

- 執行部
会長 安江野乃花(三三三)
副会長 垣内 佑介(三二二)
書記 坂 友介(三二二)
書記 森 裕太(三三二)
会計 福田 実優(三三三)
前田 春菜(三三二)
里穂(三三三)
- 専門委員長
生活 村瀬 翔哉(三二二)
美化 常川 友希(三三三)
保健 奥村 玲奈(三二二)
文化 杉原 輪(三二二)
図書 五十川倫実(三三四)
報道 後藤 千佳(三三四)
体育 山田 恵臣(三二二)



【平成22年度前期生徒会活動スローガン及び各種委員会の活動内容】

生徒会活動スローガン	挑戦 = 自分づくり
生徒会の主な活動	①生徒総会の運営 ②各種委員会のバックアップ ③ボランティアへの参加 ④体育祭・文化祭の運営

教員	和田・置田・新川・名和
会長	吉岡 里帆 (3-3)
副会長	住吉 美穂 (2-3)
書記	高橋祐佳里 (3-4)
書記	丸山 愛美 (3-4)
会計監査	橋本 有衣 (3-4)
広報	川瀬眞理奈 (3-3)
生徒	岩田 采実 (2-3) 松田 莉穂 (2-4) 松岡 聖奈 (2-4) 堀口 未桜 (2-3)

家庭クラブ役員紹介

家庭クラブ活動は、社会的活動、奉仕的活動、研究的活動として、いつもお世話になっている方に感謝の気持ちを伝えるカードを作成します。奉仕的活動としてはペットボトルのキャップを集めて寄付をしたいと思います。地域の方々にも協力していただく予定です。研究的活動としては地域のバス停に設置する座布団の研究を行います。その他講習会も実施します。楽しんでいてください。皆さんと一緒に昨年以上に充実した家庭クラブ活動にしていきたいと思っています。

家庭クラブ 活動について
会長 吉岡 里帆

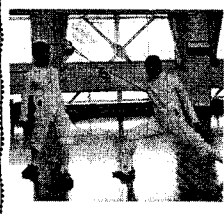
私達フェンシング部は「全国制覇」を目標とし、日々練習に励んでいます。私が一年生の時、男子が東海選抜に出場しました。しかし結果は、四位ととても悔しい思いをしました。今回出場する東海大会では、その時戦った果の、代表チームが出てきます。一試合一試合を大切にしてチームで支え合い、その後のインターハイへつなげられる試合をしていきたいと思っています。

今回の果は、優勝できたのは、指導した先生方、総体が男子団体の部が優勝できたのは、指導した先生方、

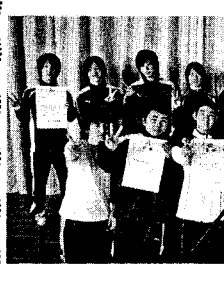


フェンシング部

いつも支えてくれた家族そして仲間達のおかげです。「全国制覇」の目標達成に向け、これで満足せず、これからも日々努力していきます。これからもフェンシング部の応援、よろしくお願います。



三十一 岡安 瞭治



三十一 岡安 瞭治

新転任の先生紹介

坂井 和裕教頭先生



- ①数学
- ②数学・スキー
- ③大学院時代の恩師（研究者としても教職者としても感銘を受けた人）
- ④高校時代から、好きな数学を「自分ならこうやって教えるな」と考えていた。（生意気な生徒？）
- ⑤千里の道も一歩から



可児 奈緒美先生

- ①地歴・公民
- ②園芸・フエンシング
- ③読書
- ④土方歳三
- ⑤社会科が好きなので
- ⑥明日は明日の風が吹く

大平 隆司先生



- ①数学
- ②バレーボール部（副）
- ③無趣味が趣味です。
- ④自分自身以外、皆師。かわつてもらえるすべての人に感謝。

- ⑤子どもの頃、なりたいたかった職業。そのまま。
- ⑥ひるむことなく、おごることなく、ひとつになることなく。

飯沼 寧雄先生



- ①理科
- ②ソフトボール
- ③山歩き
- ④湯川秀樹（核兵器廃絶を訴える平和運動に積極的）に携わった物理学者
- ⑤理科が好きであったから
- ⑥自然

石田 智佳子先生



- ①商業
- ②コンピュータ部
- ③映画鑑賞
- ④両親
- ⑤教育実習
- ⑥やればできる！

末松 大亮先生



- ①保健体育
- ②バスケットボール部

- ③趣味：YUKI鑑賞
- 特技：バレーボール
- ④米山兄弟（大学の先輩）人が持っている力を引き出させてくれる。
- ⑤自分がスポーツを通じて学んできたこと（教科書に載っていないようなこと以外）を教えていきたいと思うし、体を動かすことを好きになつてもらいたいから。
- ⑥毎日が誕生日

和田 真樹先生



- ①英語
- ②サッカー
- ③スポーツ観戦・読書・食べ歩き・テニス・読経
- ④両親
- ⑤教師は祖母のみなえられなかつた夢であつたこと
- ⑥返事は0.2秒 出来ない理由を考えない

和田 真樹先生



- ①家庭
- ②吹奏楽部
- ③パッチワーク
- ④所ジョージ、くっさん（何にでも意欲的に取り組む姿が尊敬できます）
- ⑤教員をしている人が近くにいてとても楽しそうだったし、私自身人間が大好きだから
- ⑥みんな違ってみんないい！

高崎 文世先生



- ①家庭
- ②パドミントン
- ③フラーアレンジメント
- ④夫
- ⑤自然

松野 早苗先生



- ◇インタビュ内容
- ①担当教科
- ②担当部活動
- ③趣味・特技
- ④尊敬する人
- ⑤先生になつたきっかけ
- ⑥好きな言葉

高田 颯江先生



- ①理科
- ②茶華道部
- ③スポーツ
- ④舞台鑑賞・読書
- ⑤我以外皆我師
- ⑥恩人に勧められて
- ⑦和顔愛語

野崎 富士子主任



- ①事務
- ②地球と自分にやさしい生活を送る
- ③両親
- ④エゴ

岡田 美奈子さん



- ①事務
- ②旅行・ブッカーはり（司書なら誰でもできる特技）
- ③「母」という人のすごさがわかった
- ④「母」という人のすごさがわかった
- ⑤ちよつとした偶然と努力
- ⑥晴耕雨読

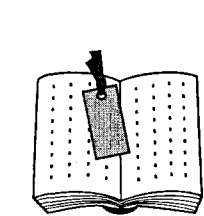
図書館応援隊

三十四 五十川倫実
 揖斐高図書館応援隊は五年目を迎え、新たな挑戦をしようという事で去年に引き続き「CHALLENGE」と名付けました。

五月には地元在住の森田画伯にお越しいただき、絵手紙の手ほどきをしていただきました。割り箸や小筆をお使いになつていくつもの作品を描かれる姿に歓声が聞かれました。一人一人が思い思いの作品を作り、出来上がるたび森田画伯や友達に見せていました。絵をうまく描くことができた生徒は森田画伯がお描きになった絵をいただくことができましたので、生徒はみながんばっていました。



六月には、講師に谷口先生、小野木先生をお招きし「地球の歩き方」についてお話しいただきました。生徒全員が先生方のお話を聞いていろいろなることを学びました。



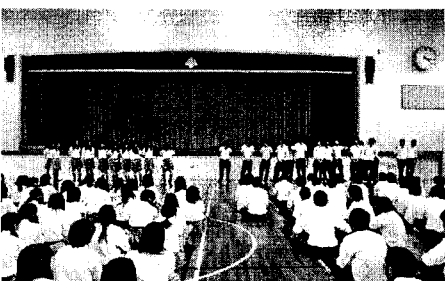
揖斐高ショップ

三十二 加藤 圭介
 今年も、恒例の揖斐高ショップを開店しました。期間は七月二十一日（水）～二十二日（木）に行い、多くのお客様に、ご来店いただきました。また様々な方々の協力により、揖斐高ショップを開催することができました。今回は、野菜、リサイクル商品や北海道芽室町の特産品、揖斐特別支援学校の方々による商品、あられなど、バリエーションに富んだ商品を販売しました。売り切れる商品ができるほど、揖斐高ショップは大盛況に終わりました。この揖斐高ショップを通じて、物を売る



結団式を行いました

三十一 山田 憲臣
 今年の体育祭スロロガンは、「大同団結」です。「大同団結」とは、いくつかの団体が多少の意見の違いを越えて一つにまとまり、共通の目標に向かうことです。揖斐高の体育祭では、赤団と青団に分かれてお互いに優勝に向かって、暑い中も練習に励みます。優勝に対してはライバル関係ですが、思い出に残る体育祭にしたいという目標は同じです。体育祭実行委員会や応援団を中心として、一人一人が、積極的に競技や応援などに取り組みましょう。どんな小さなことでも全員にとって思い出に残る体育祭になることを願っています。



サラ先生



この一年間とても楽しかったです。皆さんが毎日元気な明るい私に「ハロー」と言ってくれた。ありがとう

ありがとう！

う。来年もがんばってくださいね！

